

# 先進地行政視察報告

## 総務常任委員会

5月27日から29日までの3日間、視察先及び視察事項については、新潟県南魚沼市の「自治体病院経営」について、同県上越市の「行財政改革」と「地域自治区」についてであります。

### ●南魚沼市自治体病院経営について

南魚沼市は南相馬市と同じく合併して、二つの病院をも



▲ゆきぐに大和病院での研修

つ自治体であります。この一つの市立城内病院は一般病床21床、介護療養病床4床、常勤医師2人、医療職29人、その他18人、もう一つの市立ゆきぐに大和病院では、一般病床数161床、療養病床38床、常勤医師14人、職員数208人です。

### ●地域に開かれた病院の取り組みについて

市民ボランティアの参加協力を得て、外来、院内各所案内、車椅子移動介助、病室とリハビリ室間の送迎、話し相手、見守り、付添い等、患者に良いサービス提供ができ患者が気持ちよく病院を利用できること、第三者の視線が入ることによって職員の意識改革や病院の活性化につながる。又中学生、高校生にも参加してもらい、医療に携わる人間づくりにもなっている。

### ●病院経営の効率化について

院内に経営改善検討会を設置し検討を行っている。今年4月より看護師、薬剤師、レントゲン技師、リハビリ師などの専門職員は午前中に自分の

仕事を終わらせ、午後は忙しい部署に応援に行くなど二足の草鞋を履いてもらう。民間では当たり前の事。今までは違う視点でものを考え実践し、採算部門の新たな事業化や独立行政法人化に向けた運営母体の検討等に積極的に取り組む必要があると考える。

### ●上越市について

上越市は14の市町村が平成17年1月に合併して人口208,082人の市である。

### ●地域自治区設置について

合併に際して編入する13の旧町村は6割が中山間であり、区役所は旧役場におき、所長には一般職の課長をおいている。

### ●地域協議会について

地域協議会委員の定数は、旧町村の議会議員の定数として全員公募しており、定数より多い場合は市議会選挙と合わせて選挙で行い、任期は4年である。報酬は無報酬で、一人当たり千二百円、交通費として支給される。

### ●行政財政改革推進について

行政改革推進計画を平成18年度から22年度までを目標と設定し、行政運営の基盤である執行体制の整備と財政状況の改善を最優先課題としている。

## 文教福祉常任委員会

5月14日から16日までの3日間、

視察地及び視察事項につきましては、北海道洞爺湖町の「貝塚を生かした公園整備」について及び江別市の「ごみ処理とリサイクル」についてでございます。

まず洞爺湖町の概要であります。平成18年3月27日に虻田町と洞爺湖村が合併し「洞爺湖町」となりました。湖(洞爺湖)と山(有珠山)と海(噴火湾)に囲まれた自然豊かな町です。人口は11,143人です。研修目的の「貝塚を生かした公園整備」について、入江貝塚は海に面した高台にあって、高砂貝塚と連続した遺跡です。入江地区には3ヶ所の貝塚があり、墓地もかねていて19体の人骨も発見されており、中には小児麻痺で不自由な生活をしたことが想像され、縄文時代はこのような人々も一緒に生活する共生の時代であった事が想像されます。

入江貝塚は、①体験学習場として位置づけ②まちづくりに連動する文化財観光資源として位置づけ③人と自然との共生の場をつくることを目的



▲洞爺湖町での研修

とする。説明の中で「貝塚はごみ捨て場ではないのです。そしてすべてのものに命があるのです。」とお聞きし、非常に感動致しました。次に江別市の概要であります。

江別市は石狩平野の中央部に位置し、平坦な地勢で豊かな自然環境に恵まれております。

人口は123,012人です。あります。ごみ減量のため平成16年10月から家庭ごみの処理は有料化になりました。有料化については半年間かけて説明会を実施したとの事でした。

## 建設経済常任委員会

「燃やせるごみ」と「燃やせないごみ」を出す際には「指定ごみ袋」か「ごみ処理券」が必要となり、ごみ袋は40リットル大袋で1枚八十円でリットルあたり二円とのことです。

江別市の場合、ごみの焼却のイメージとは異なり、ガス化溶融炉の施設があり、ごみを蒸し焼きにした後で、1,300度の炉の中でごみを溶かしています。普通のごみ焼却炉では、ごみを燃やした後に焼却灰が出ますが、ガス化溶融炉では灰も溶かされスラグというガラス質の物質になり、このスラグは資源として道路の舗装へ再利用が期待されています。

ごみの有料化によって減量の効果は平成15年から平成17年の3年間で「燃やせるごみ」マイナス7,350トン、「燃やせないごみ」マイナス2,607トン、1日1人あたりマイナス214グラムの数字として確実に減っていることが分かりました。そして市民の方の意識と関心度が非常に高いことがすばらしい結果を生んでいると感じて参りました。



▲飯田市での研修

5月20日から22日の3日間、長野県飯田市の「中心市街地再開発事業」と小布施町の「賑わいと交流のまちづくり」についてです。

### ●飯田市の「中心市街地再開発事業」について

中心市街地再生のきっかけは、中心市街地から校外へ商業施設の移転、商店街の顧客流出、市街地の人口減少・高齢化で「まちの魅力」が半減し、中心性が失われようとしてきたことである。

そこで、都市基盤に手を加え、新たな機能を創造することで都市構造の革新を図り、まちの魅力を取り戻そうと、再生事業に取り組んできた。中心市街地再生に対しては、「住宅と商業と仕事等の都市機能を合わせた安全で利便で快適な、暮らしよい環境をめざす」「中心市街地全体が共同体であり、公共性を持った市民の財産である」「土地・建物の所有者と生活する人々の利益と商業地・生活地としてのポテンシャルを向上させる」「つねに住民の合意形成を大切に市民主導にする」との視点で、都市経営というコンセプトの下、庁舎に集中した配置から現場主義として街中にそれぞれの担当課を配置して実効性ある行政をしようとする姿勢がうかがえます。結果として、街なかの賑わいと生活が再生してきています。

### ●小布施町「賑わいと交流のまちづくり」について

59年から61年にかけて「街並み修景事業」を実施し、栗菓子のお舗や民家の歴史的景観をとどめる面的整備を行い、潤いのある美しい町にするために、家を造るときには「建物の外観と色は、周囲の景観にあわせる。特に屋根の形状は陸屋根は避ける」「道路と接する敷地部分は極力緑化する」「道路沿いの塀は生け垣などで緑化する」「車庫・物置等外から見えるものは配置を工夫する」「空き地には町の花を植えて花いっぱい運動を進める」

町並みを造るためには、「広告物は節度をもって建てる」「大規模な建物や工作物は配置や形態を工夫する」「駐車場の出入り口は歩行者に配慮し、植栽などで緑化する」「建物の前に空間を設け、憩いの場とする」という環境デザイン協力基準をつくり、「記憶に残る風景を」を合言葉に景観形成のため計画的に取り組んだ結果として安らぎと潤いのある町並みが形づくられてきたものです。根底は「空間はみんなのもの」との考えがあるとのこと。多くの観光客で一杯でした。

## 議会運営常任委員会

南相馬市議会でも6月よりインターネット配信を実施することから、議会運営全般について、4月22日より24日まで京都府八幡市と滋賀県長浜市の行政視察を実施致しました。

### ●八幡市議会運営について

八幡市は昭和29年、3町村が合併して八幡町が形成され、昭和52年11月に市制が施行され現在に至っています。人口は現在73,651人です。議員数は条例定数22名に定め、現在1名欠員の21名です。2名以上の会派制をとっており、現在5会派で無会派はありません。質疑については通告は無しで、時間制限は質問のみで60分以内としています。

### ●一般質問について

大項目ごとの通告制であるが聞き取りはないとの事です。一問一答ではなく時間制限については、質問のみで60分としております。

### ●予算議案の取り扱いについて

当初予算は、3月議会初日に上程、説明、質疑、特別委員会を設置し、会期中に委員会を三日間開催し、最終日に